

#社会 #健康 #検証・マイナ保険証 #戒野文菜記者 #福岡範行記者

## 「電子処方箋」患者の同意なしでも重複投薬や併用禁忌を自動チェック…識者は「医療情報は究極の個人情報」

2026年3月1日 06時00分

有料会員限定記事

0

あとで読む



2023年1月に始まった薬の情報のやりとりをデジタル化する「電子処方箋」の運用が、全国の約9割の薬局に広がった。薬の重複などを自動的にチェックする機能があり、不適切な使用の歯止めになる。だが、マイナ保険証による医療情報の提供とは異なり、薬歴提供の同意がなくてもチェックされることは十分に周知されていない。（福岡範行、戒野文菜）

### ◆患者の同意あれば該当する薬の情報も見られる

電子処方箋を使う精神科クリニック（東京都文京区）の吉川和男院長の評価は高かった。「重複処方をアラート（警告）してくれるのが、役に立つんです」。例に挙げたのは、複数の医療機関で睡眠薬の処方を求める患者に気づくことができることだ。転売目的のケースもあり得るといふ。

電子処方箋が実現したのは、マイナ保険証の導入に合わせて医療データ活用の基盤ができたことが大きな要因だ。吉川院長は「未来にもっと情報を共有できるようにする第一歩だ」と歓迎する。

チェックは薬の処方や調剤に合わせて電子処方箋を使う際に原則、行われる。患者の薬歴自体を表示するのではなく、薬歴を保存するデータベースに照会し、服用中の薬と成分が同じ薬を出す「重複投薬」や、飲み合わせが悪く、強い副作用などの恐れがある「併用禁忌」に当てはまると警告が出る。政府によると全国で警告は毎月、重複投薬が1000万件ほど、併用禁忌が1万5000件ほどある。

薬歴は、患者がマイナ保険証を使っていなくてもデータベースに保存されているため、マイナ保険証代わりの「資格確認書」で受診する患者らも対象になる。警告後に患者の同意が口頭などで取れば、該当する薬の情報も見られる。



電子処方箋の重複投薬のチェック機能について話す吉川和男院長＝東京都文京区で

### ◆「良いことだから勝手にやってあげる」という姿勢は避けるべき

ただ、電子処方箋を使う病院は2割弱にとどまるなど医療機関での導入は低調で、チェック機能があることすら知らない精神科クリニックもある。患者も、なぜ過去の薬の情報が分かるのかと疑問に感じかねない。重複投薬の警告が出た際、「患者から理解が得られず、トラブルになる事例」があったと周知する健康保険組合もある。

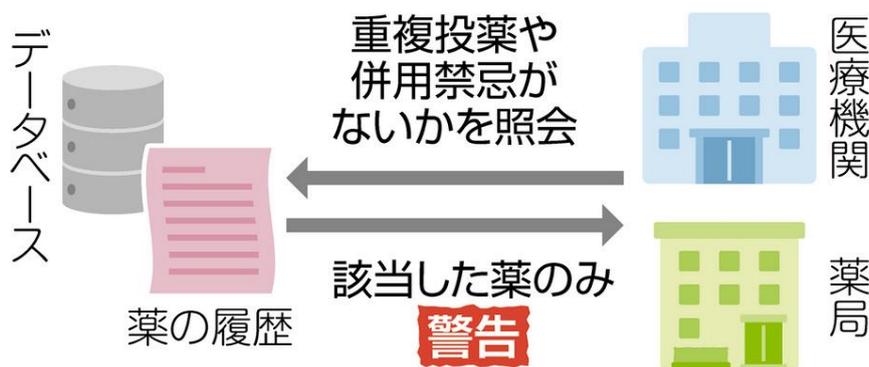
電子処方箋の活用を推進する厚生労働省医薬局総務課の担当者は、チェック機能について「薬剤情報が蓄積されているので、システムを使うことで、より簡単にチェックできる」と導入理由を説明する。

厚生労働省はホームページなどで電子処方箋を周知しているが、重複投薬などのチェックが、マイナ保険証での情報提供に不同意の場合でも行われることの説明部分は目立たない。

社会保障の国際比較研究を続ける田中耕太郎・元放送大客員教授は、チェック機能を「デジタル化のメリット」とした上で、「医療情報は、究極の個人情報。既にこういう仕組みで利用していると、もっと丁寧にお知らせするべきだろう」と指摘する。情報管理の主権は患者にあるのが基本で「良いことだから勝手にやってあげる」という姿勢は避けるべきだとし、

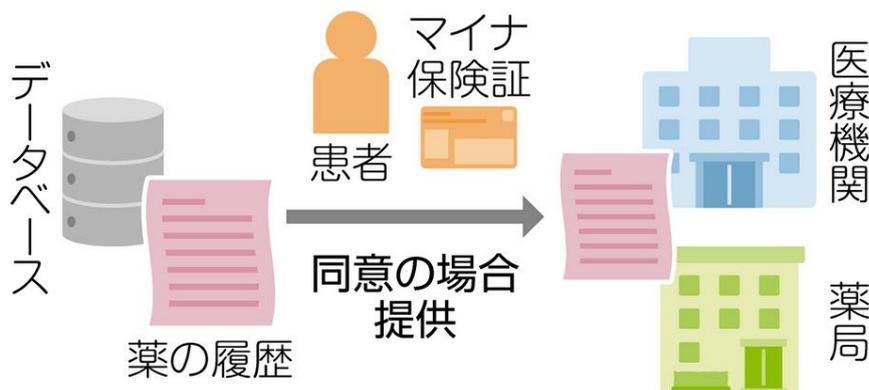
「分からないうちに利用がどんどん進むのは、信頼を得る道にはならない」と説いた。

## 電子処方箋を使った自動チェック



※患者の同意は不要

## マイナ保険証を使った情報提供



**電子処方箋** 紙で出されてきた処方箋をオンラインでやりとりするシステム。本格運用は2023年1月から。薬の処方や薬局での調剤の情報が随時、登録され、直近の薬の情報も確認できる利点がある。マイナ保険証の受診手続きシステムでは1カ月以上前までの薬歴しか分からなかった。2026年1月時点の導入率は病院18.7%、医科診療所24.9%、歯科診療所8.0%、薬局88.2%。

【関連記事】 [政府が目指す電子カルテ「普及100%」は「何のため」？ 現場にチラつくのは、新型コロナ情報共有の大失敗](#)

【関連記事】 [政府「マイナ保険証ならでは」…この説明は不正確だった メリット強調したくて？「誠実さ欠けている」と難病患者](#)

なるほど！  
1

大切だね  
0

もやもや…  
0

もっと知りたい  
1

カテゴリーをフォローする

+ 社会

+ 健康

+ 検証・マイナ保険証

+ 戎野文菜記者

+ 福岡範行記者



あわせて読みたい